

審査意見への対応を記載した書類（９月）

（目次） 事業創造学部 事業創造学科

1 【第一次審査意見 5 の回答について】

＜科目内容が不適當＞

「会計学」や「財務諸表論」を簿記の履修後に学ぶ配当年次に改められたが、「会計学」と「財務諸表論」の教育内容に簿記で既修の内容が含まれているため、教育内容の重複を改めること。また、「財務諸表論」のシラバスの学修目標や参考書において「経営組織論」の科目と同一内容が記載されているため、科目内容を適切に改めること。

（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

(改善事項) 事業創造学部 事業創造学科

1 【第一次審査意見5の回答について】

＜科目内容が不適当＞

「会計学」や「財務諸表論」を簿記の履修後に学ぶ配当年次に改められたが、「会計学」と「財務諸表論」の教育内容に簿記で既修の内容が含まれているため、教育内容の重複を改めること。また、「財務諸表論」のシラバスの学修目標や参考書において「経営組織論」の科目と同一内容が記載されているため、科目内容を適切に改めること。

(対応)

簿記の履修後に学ぶ「会計学」や「財務諸表論」の教育内容において、簿記での既習内容となっていた、それぞれ「複式簿記の基礎概念 取引概念と勘定科目」「貸借記入（増減記入）のルール 仕訳記入と元帳転記」、「複式簿記原理 簿記一巡の手続き」について、

【資料1】と【資料2】の通り、教育内容が重複しないよう適切に改めるとともに、1回～8回の授業計画について、授業科目の概要に合わせて全体の構成を適切に改めた。

また、「財務諸表論」のシラバスにおいて「経営組織論」の学修目標と同一内容であった「組織の運営メカニズムについての基本的な知識を習得できる。」「組織管理に関する諸知識に基づいて、組織を実際に効果的にマネジメントする能力を身に付けることができる。」については、「1. 財務諸表に関する基礎的知識や考え方を学修するとともに、2. 基本的な財務諸表を作成できる技能を修得することを到達目標とする。具体的には、財務諸表の意義と概要が理解でき、損益計算書や貸借対照表等の基礎的な財務諸表を作成する能力を養成する。」に改めると共に、参考書としていた「組織論（補訂版）」については、「財務会計講義【第19版】（中央経済社）」「財務会計・入門―企業活動を描き出す会計情報とその活用法【第12版】（有斐閣）」とし、それぞれ【資料2】の通り、適切に改めた。

更には、「会計学」のシラバスにおいて参考書としていた「財務諸表分析【第7版】（中央経済社）」については、内容変更に伴い、「現代会計学【第二版】（中央経済社）」に改めた。

【資料1】 会計学 シラバス（授業計画）

【資料2】 財務諸表論 シラバス（授業計画）

審査意見への対応を記載した書類

【資料 1】

【資料1】会計学シラバス

授業科目

会計学

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	事業創造学科
平田 沙織		開講時期	②	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要】					
会計はビジネスの言語とも言われ、企業の取引や経営実態を理解するうえで不可欠ともいえる。ただし、会計学は企業（営利組織）を対象としたものから非営利組織を対象としたもの、あるいは制度面を重視したものから企業内部の経営管理を重視したものまで、その研究対象は多様なものである。そこで本講義は、会計学全体の概要について学習し、会計諸科目（財務諸表論、管理会計論、税務会計論、国際会計論、環境会計、公会計論、監査論、原価計算論、経営分析論、情報会計論など）の相互関連を理解することを目的とする。					
【学習目標】					
本講義では、受講生が、１.現代会計に関する基礎的知識や考え方を学修するとともに、２. 基本的な会計処理ができる技能を修得することを到達目標とする。具体的には、会計を構成する諸要素の概念と論理が理解でき、初歩的な処理手続をおこなう能力を養成する。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	イントロダクション、会計の意義と種類			1	講義
2	企業会計の仕組み（技術的特徴と理論的特徴）			1	講義
3	企業会計制度（会社法、金融証券取引法、法人税法）			1	講義
4	資産会計（資産の意義と分類）			1、2	講義、演習
5	負債会計（負債の意義と分類）			1、2	講義、演習
6	純資産会計（純資産の意義と分類）			1、2	講義、演習
7	損益会計（損益会計の意義と分類）			1、2	講義、演習
8	外貨換算会計、まとめ			1、2	講義、演習
9					
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 （必ず購入する書籍）		なし			
参考書		財務会計・入門―企業活動を描き出す会計情報とその活用法（第12版）	桜井久勝・須田一幸	有斐閣	2018年
参考書		現代会計学（第二版）	新井清光・川村義則	中央経済社	2018年
その他の資料		教科書は使用せず、資料を配布する。			
準備学習（予習・復習等）		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料や教科書を事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
成績の評価は、期末テストの成績（70％）とミニテストの成績（30％）の総合評価で行う。なお、ミニテストは授業時間内に実施する。		以下の注意事項を遵守して、授業には積極的に出席するように。 １. 遅刻はしないようにすること。 ２. 欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。 また、質問・相談は、基本的に授業終了時に受け付ける。 受講生は、卓上型の電卓を毎回持参すること。 履修条件：簿記概論、簿記演習の単位を修得済みの者			

審査意見への対応を記載した書類

【資料 2】

【資料2】財務諸表論シラバス

授業科目

財務諸表論

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	事業創造学科
平田 沙織		開講時期	③	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要】					
一般に、会計は、企業の経済活動または経済事象を貨幣数値により計算報告する技術であると定義されるが、そのうち企業の利害関係者のための外部報告会計を特に「財務会計」とよぶ。したがって、財務会計の目的は、企業の利害関係者が企業について知りたい内容を的確に知らせることである。本講義は、企業が財務諸表をはじめとする会計情報を作成するに際して準拠する会社法、金融商品取引法などの会計諸規定、さらには国際会計基準（財務報告基準）をもとに、企業活動の成果の認識、測定及び開示に関する問題点を含めて講義し、財務諸表における基本概念や数値の意味の理解をその到達目標とする。					
【学習目標】					
本講義では、受講生が、1.財務諸表に関する基礎的知識や考え方を学修するとともに、2. 基本的な財務諸表を作成できる技能を修得することを到達目標とする。具体的には、財務諸表の意義と概要が理解でき、損益計算書や貸借対照表等の基礎的な財務諸表を作成する能力を養成する。					
単元・回数	授業計画又は学習の主題			学習目標番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	イントロダクション、財務諸表の意義と種類			1	講義
2	法令に基づく財務諸表			1	講義
3	財務諸表の作成（1）損益計算書			2	講義、演習
4	財務諸表の作成（2）貸借対照表			2	講義、演習
5	財務諸表の作成（3）キャッシュ・フロー計算書			2	講義、演習
6	連結財務諸表の意義と範囲			1	講義
7	連結財務諸表の作成（1）連結損益計算書			2	講義、演習
8	連結財務諸表の作成（2）連結貸借計算書、まとめ			2	講義、演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)		なし			
参考書		財務会計講義（第19版）	桜井久勝	中央経済社	2018年
その他の資料		財務会計・入門—企業活動を描き出す会計情報とその活用法（第12版）	桜井久勝・須田一幸	有斐閣	2018年
準備学習（予習・復習等）		予習としてその前の授業で指定する範囲の資料など事前に読み、必要に応じ図書館等で専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。学習した内容について各種文献等を用いて検討し、理解を深めること。			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
成績の評価は、期末テストの成績（70%）とミニテストの成績（30%）の総合評価で行う。なお、ミニテストは授業時間内に実施する。		以下の注意事項を遵守して、授業には積極的に出席するように。 1. 遅刻はしないようにすること。 2. 欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。 また、質問・相談は、基本的に授業終了時に受け付ける。 受講生は、卓上型の電卓を毎回持参すること。 履修条件：簿記概論、簿記演習、会計学の単位を修得済みの者			